

## 塾長の独り言 NO124 H21 .5 .7

「ネコ型社員の時代」 (ネコ型社員の時代 山本直人 新潮新書より一部抜粋)

### 「忙しい」と「慌ただしい」の違い

ビジネスでは「忙しいですか?」という挨拶をよくします。  
仕事の出来る人は忙しいとは言わないが、ダメな人は忙しいとすぐに言うものです。  
このポイントは「忙しい」と「慌ただしい」の違いが分かっていると納得します。

**時間に追われているのはダメです。「忙しい」のではなく「慌ただしい」だけなのです。」**

何か目的に向かって、一生懸命に取り組んでいるなら「忙しい」ということになる。  
これは決して悪いことではない。  
でも、自分が目的をはっきり持っているわけでもないのに、何となく時間が取れないような状況だけは延々と続いている。追われている。  
これが「慌ただしい」だけでしょう。

仕事が増加している時には、自問するようにするといいです。  
「これは本当に忙しいのだろうか。それとも単に慌ただしいのだろうか?」

慌ただしさからは、何の成果も生まれない。  
だが、職場によっては集団覚醒のような状況を生み出し、それを好むところもある。  
ネコ型社員にとっては、思わず引いてしまいたくなる状況だ。  
そういえば、何かと「一体感」を好む中高年の社員は結構いる。  
仕事の成果よりも何よりも、みんなの「一体感」が最優先になる。  
ところが、こういう発想は「慌ただしさ」だけを増長させるような結果となりやすい。

大切なことは仕事の成果である。  
そして、一人ひとりが納得した成果を生み、それが正しく評価される職場であれば、一体感は自然と後からついてくるはずだ。  
ネコ型社員は、獲物を前にすれば集中して働く。成果の為の忙しさは厭わない。  
しかし、単にワサワサと慌ただしいだけの職場からは去っていくだろう。  
忙しさと慌ただしさを峻別するのはネコ型社員の大切な掟だと思う。

### <コメント>

「忙しい」…この言葉をビジネスでは簡単に使っている。  
忙しにとは…忙しにとだ! という暗黙な前提があるような気がする。  
それはいつの間にか、一生懸命、頑張っていれば…結果はともかく、努力は全てを覆い隠す!  
そんな日本人の甘えがあるような気がするの、私だけだろうか?  
本当は「忙しい」のではなく、ただ「慌ただしい」だけではないだろうか?  
時間をいかに有効活用するかが、現代のビジネスでの大切な心がけです。  
「心を亡くす」と書いて…「忘れる」と書きます。  
心を亡くした人に誰が大切な仕事を信頼して依頼してくれるでしょうか?  
そんなこともあり「忙しい」とは、決して良いこととは、私には思えないのです。  
だから私は、決して「忙しい」とは言わないようにしています。